

今月号のキーワード | 1980年代より米国・欧州に拠点をもち、海外ビジネスを展開してきた日立ソフト

特集

日立ソフトのグローバル事業の取り組み
米国子会社HISALに焦点を当て、米国で展開する代表的な事業を紹介します。

Topics | 香港の私立学校(Good Hope School)で、電子黒板「StarBoard」の製品トレーニングを実施

お知らせ | 第1回クラウドコンピューティングEXPOに参加

特集

日立ソフトのグローバル事業の取り組み

20年以上、米国市場への展開を行ってきた米国子会社HISAL

谷口 吉彦(右) Yoshihiko Taniguchi

国際推進本部
グローバルビジネス推進部
システムグループ

2007年よりグローバル市場向けに新規ビジネス立ち上げやマーケティング業務を担当。最近では欧米の農業市場に対するプロジェクトを展開中。

伊藤 敏明(左) Toshiaki Ito

国際推進本部
グローバルビジネス推進部長
グローバル関連事業に従事した経験をベースに社内のグローバル案件・事業の発掘、立ち上げを推進中。



■日立ソフトの海外拠点

日立ソフトの国際事業は1970年代後半から試行を始め、ライフサイエンス、地理情報システム(GIS)などの事業を展開してきました。1981年に米国サンフランシスコに駐在事務所を開設。1990年に、サンフランシスコに開発・販売の拠点として当社初の現地法人「日立ソフトウェアエンジニアリングアメリカ社」(Hitachi Software Engineering America, Ltd., 略称:HISAL)を設立したことで、海外展開が本格化しました。その後、1994年には欧州拠点としてフランスに「日立ソフトウェアエンジニアリングヨーロッパ社」(Hitachi Software Engineering Europe S.A., 略称:HSEE)を設立し、これにより「日米欧三極体制」を確立したのです。2002年にはHSEE本社をベルリンに移転、その子会社としてフランスに日立ソ

フトウェアエンジニアリングフランス社(Hitachi Software Engineering France S.A.S., 略称:HSF)が設立されました。更に、2003年には英国ケンブリッジ大学出版局と電子教材事業で提携し、合弁会社「ケンブリッジ日立ソフト(Cambridge-Hitachi)」を設立。現在は英国、ドイツ、フランスの欧州と米国(サンフランシスコ、サンディエゴ、ニューヨーク)の海外拠点において、電子黒板「StarBoard」を中心に国際事業を展開中です(図1)。また、中国(天津、北京、大連)、ベトナム(ハノイ)は、当社のオフショア開発拠点です。この度のニュースレターでは、HISALに焦点を当て、米国で展開する日立ソフトの代表的な事業を紹介します。

■米国現地法人HISAL

HISALは設立以来、20年近く、米国でのビジネスを通じて現地におけるプロダクト・サービス・マーケティングの様々なノウハウや経験を蓄積しています。日立ソフトで開発されたソリューションをベースに米国市場への展開を行っており、主な事業分野として、教育市場向け電子黒板「StarBoard」、ライフサイエンスやセキュリティソリューションがあります。

1. 電子黒板「StarBoard」

「StarBoard」は、学校のICTツールとして、小中高、大学等の教育現場に幅広く導入されています。全米では3万台以上、全世界で累計12万台の販売実績があり、日立ソフトの

海外事業の大きな柱となっています。最近では教育専門のコンサルタントによる電子黒板の啓蒙活動のほか、Webページを活用したフリーの教育向けコンテンツの提供、フォーラムの開催やユーザサポートなど、「StarBoard」の導入拡大に向け積極的な取り組みを行っています。

<http://www.hitachi-soft.com/starboard/> (米国の「StarBoard」サイト)

2. ライフサイエンス事業

HISALのライフサイエンス事業は、以下の3つの分野から構成されています。

(1) 遺伝子およびタンパク質配列解析ソフト「DNASIS(ディナシス)」シリーズの販売

「DNASIS」は25年以上の歴史を誇り、ワールドワイド向けに累計2万本以上の出荷実績がある、日立ソフトを代表するバイオインフォマティクス分野の配列解析ソフトです。

(2) 実験データ解析ソフト「MasterPlex(マスタープレックス)」の開発、および販売

「MasterPlex」は、バイオ実験機器から出力されるデータを定性的、定量的に様々な角度から解析する為のパッケージソフトです。少ない手間で複雑な解析を行う事ができ、専門知識がなくても、レポート作成までを数クリックで行える事が最大の特徴です。「MasterPlex」は米国市場のニーズをタイムリーに取り込みながら成長してきており、癌など難病の研究や、臓器移植時の適合性判定など、様々な分野で世界中で利用されています。

(3) 生体分子実験解析機器「Luminex(ルミネックス)」の販売

「Luminex」は米国Luminex社が開発した、100種類までの複数項目を同時に測定できる解析装置です。HISALは同装置、および実験を行う際に必要となる消耗品の販売を、米国、日本、アジア市場向けに行っています。

HISALでは、Web広告を掲載する「Google adwords」、サーチエンジン最適化(SEO)、ウェビナー(Webinar)^(※1)、ブログ、コミュニティサイトなどを積極的に活用しながら、同社のWebマーケティングを少数で効率的に展開しています。製品デモや顧客サポートにおいても、デスクトップシェアリングサービスを活用したオンラインデモ・サポートを励行し、販売効率の向上に努めています。

※1. WebとSeminarを組み合わせた造語で、ネット上で行われるWebセミナー

また、バイオ研究市場への新たなマーケティングの試みとして、クラウドコンピューティングを活用した Webベースの遺伝子解析サービスの提供による「DNASIS SmartNote(ディナシススマートノート)」というSNS^(※2)サービスを運営しています。

※2: Social Networking Service: 人と人とのつながりを促進するコミュニティ型のWebサイト

近年、ライフサイエンス分野では日進月歩で研究が進んでおり、かつてない勢いで研究の複雑化、多様化が起っています。インターネット上には研究者が公開した無償の解析システムが無数に存在し、その数は今後も増え続けていくと思われます。そしてその進歩があまりにも早いため、研究者が一人で世界中の動向をウォッチするのは難しい状況となっています。更に個々のツールで解析のインターフェースが統一されていないため、各ツールの使い方を憶えたり、入力データを手動で加工し



図1: 日立ソフトの海外子会社

たりする手間が発生することになります。そこでHISALでは、SNSを通じて研究者から得た情報を元に、それらのツールの中から有益な物をピックアップし、SNS上から直接利用できるようにしています。そうする事で、研究者が最新の情報とツールに簡単にアクセスすることができます。このように、「DNASIS SmartNote」はライフサイエンス研究に貢献しながら、最新の市場ニーズを研究者から吸い上げ、新たな製品・サービスを立ち上げる情報を提供するために活用されています。

3. セキュリティソリューション

HISALでは1993年に「Security Solutions Group」を発足し、営業とSEが一丸となって米国のビジネスの現場で自社および他社技術を柔軟に組み合わせた独自のソリューションを提供しています。また、自社ソリューションを米国で提供するためのマニュアルの開発も行なっています。日米間のビジネス文化の違いからマニュアルに対するニーズも異なり、これらマニュアル開発ノウハウの蓄積は大変貴重なものとなっています。現在の主な活動としては、情報漏洩防止ソリューション「秘文」の米国展開を中心に、セキュリティソリューションに関する販売や技術支援、マーケティングなどの業務を行なっています。サンフランシスコとニューヨークの2拠点から全米をカバーし、Web、メール、電話でのサポートに加え、遠隔でお客様のシステムの画面を共有しながらトラブルシューティング作業も実施しています。

また、米国向け携帯電話の最終フィールドテストなどのサービスを提供しているほか、株式会社日立製作所を含む日立グループ各社と連携し、日本企業の米国法人に対するシステム導入や技術支援などを行なっています。

■グローバル市場拡大に向けて

現在の日立ソフトの国際事業は、欧米を中心に、「StarBoard」やライフサイエンス、セキュリティのほか、米国DigitalGlobe(デジタルグローブ)社の衛星画像事業をグローバルに展開しています。今後はこれらを更に拡大するとともに、「StarBoard」などに続く第二、第三のグローバル事業を立ち上げるべく、農業、産業、金融、通信などの市場に対してソリューションを展開していきます。日本からも積極的に人を派遣し、海外とのコミュニケーションや人財強化も図っていきます。(図2)HISALは、米国のIT業界のトピックスや動向など業界情報を日本へ発信してきましたが、2009年よりマーケティング専門の組織を設置しました。今後は、従来の市場調査に加え、パートナー開拓やアライアンスなど新規ビジネス立ち上げを積極的に推進していきます。

また、中国では経済の急速な発展や日本企業の進出などに伴う情報システムの整備が急がれており、重要なIT市場になりつつあります。このような背景の中、中国進出を目指す日本企業にSIサポートや自社製品の中国企業向け展開を行なうための組織を2009年に設置しました。今後は、中国における市場拡大に向けても積極的に推進していきます。



図2: グローバル市場の拡大に向けて

最近のニュースリリース

当社の最新およびこれまでのニュースの詳細は、当社ホームページのニュースリリース

<http://hitachisoft.jp/news/index.html>にてご覧頂けます

■ 組み込みデータベース「Entier」が日立ハイビジョンテレビ「Woo」XP05シリーズで採用

「Entier」の、コンパクト・高機能・高性能な点と、技術サポート力が評価され、「ワケ録」などのデータ管理基盤として採用されました。

■ OSGi プラットフォームで動作するホームゲートウェイ向けサービスアプリ群「SuperJ Engine Bundles」を提供開始

家庭内のDLNA 対応情報家電機器と連携し、DLNA コンテンツの視聴が可能となります。

■ 日立ソフトと島根県産業技術センターが、ジェスチャー操作を用いた新感覚のエンターテインメントシステム提供開始

日立ソフトと島根県産業技術センターとの協業で開発された体験機能、情報提供&学習機能、施設案内機能を持つ複合型システムです。

TOPICS

香港の私立学校(Good Hope School)で、電子黒板「StarBoard」の製品トレーニングを実施

2010年4月12日、「StarBoard FX-DUO-77」を約50台導入頂いた香港のGood Hope Schoolにて、英国のケンブリッジ大学出版局から製品トレーナーを招き、「StarBoard」の製品トレーニングを実施しました。

当日は学校を休校にして、多くの先生が参加し、実際の授業での利用方法への理解を深めてもらいました。

トレーニングに参加した先生は幼稚園部・小学校部合わせて54名。内容は「StarBoard」ソフトウェアの機能を駆使し、お絵かきや英文法・算数・理科といった授業で使えるコンテンツの作成方法など多岐に亘り、参加した先生からは非常に満足したとの声が多く聞かれました。

今後は中等部(中学校・高校)への追加導入が期待されています。

Good Hope School

トレーナーによるトレーニング風景



お知らせ

第1回クラウドコンピューティングEXPOに参加

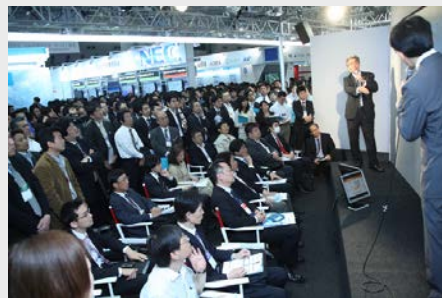
第1回クラウドコンピューティングEXPOが、5月12日(水)から14日(金)の3日間、東京ビッグサイトにて開催されました。

日立ソフトは、日立製作所他、グループ各社と共同で本展示会に参加を致しました。

本展示会で当社は、『在宅勤務サービス』『統制IT基盤提供サービス』などの製品展示と「クラウドで解決! 問題発見講座」のステージを実施しました。また、最終日には、セキュリティサービス本部長 中村輝雄が、フリーアナウンサー 福澤 朗氏と「クラウドが私たちの生活を変える」をテーマについての対談ステージを行いました。

展示会場には、併設の10展示会も含んで3日間で122,371名のお客様が来場され、好評のうちに終了致しました。

当社では、今後、クラウドの導入をご検討されているお客様向けのセミナーの開催も予定しています。



商号

日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社

本社

〒140-0002 東京都品川区東品川4丁目12番7号

Tel:03-5780-2111(大代表)

1970年9月21日

設立年月日

従業員数

5,492名(2009年9月末)

売上高

1,658億円(連結)(2009年3月期)

事業内容

『システム開発』、『サービス』、『プロダクト&パッケージ』の3つを主な事業領域とし、加えて『情報処理機器』の開発・販売、そしてトータル『システムインテグレーションサービス』の提供

主要製品・サービス

機密情報漏洩防止ソリューション「秘文」、指静脈認証システム「静紋」、電子ドキュメントトータルソリューション「活文」、インタラクティブ電子ボード「StarBoard」、地理情報システム「GeoMation」、統制IT基盤提供サービス「SecureOnline」他

認証取得等

ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)、ISO9001(品質マネジメントシステム)

主な子会社および

関連会社

日立ビジネスソリューション(株)、日立ソフトシステムデザイン(株)、キャブカード&サービス(株)
(株)アイネス、(株)ビジネスブレイン太田昭和、(株)DACs

ニュースレター、転載、取材に関するお問い合わせ

Tel:03-5479-5013 [CSR本部広報・宣伝部:竹橋、高野]

E-mail:press@hitachisoft.jp

* 記載されている会社および製品名は各社の商標または登録商標です。
発行日 2010年5月26日